

2021年度学校自己評価

東海大学付属市原望洋高等学校

()内の数値は2020年度のもの

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営	<p>①生徒一人ひとりの確かな学力と思考力を育成し、大学での専門教育を受けるために必要な学力を身に付けさせる。</p> <p>②進路指導に伴う具体的な指導内容を確立し、生徒の個性や適性を十分に伸ばす指導を実践する。</p> <p>③本校独自の特色ある教育の実践をめざす。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT環境整備(電子黒板とタブレット端末の導入)への継続的な取り組みが評価された。また、教員の授業力向上と生徒の主体的な学習への取り組みに一定の成果がみられ、学習指導に対する生徒の評価は向上した。 教科指導の充実を図るため、教科を超えてお互いの授業を見学する「互見授業」を実施し、ICT機器を活用した授業開発に取り組む等、教員の授業力向上が評価されている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育環境の整備、改善は、今後も継続して進める必要がある。 本校の教育活動に関する情報発信を更に活発化させる必要がある。ホームページや学校報等を広く活用し、様々な取り組みを迅速かつ正確に伝える必要がある。 	<p>生徒 3.8 (3.8)</p> <p>保護者 3.9 (4.0)</p> <p>教員 3.6 (3.7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も中長期的な計画のもとで施設設備を充実させていくためには、学校教育の活性化とたゆまぬ「学校改革」が必要であることを、教職員全員の共通認識としていく。 充実した学習環境が、学力向上へと反映される具体的な取り組みを検討し、また、授業評価アンケートを活用し、各教科ごとに組織的な授業改善に取り組んでいく。 本校の教育活動を校外へ積極的に情報発信し、理解と賛同が得られるように努めていく。 付属校としての本校の特色を打ち出し、生徒の個性や適性を十分に伸ばすプログラムを開発する。
学習指導	<p>①家庭学習の習慣化のための具体的な方策を検討・実施する。</p> <p>②わかりやすい授業展開を基本にし、主体的で能動的な取り組みを中心とした生徒参加型授業の実施によって、生徒の学力向上をめざす。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT教育機器の拡充にもない、展開を工夫した効果的な授業が可能となった。 学習指導において、計画的な家庭学習課題の設定が重要であることを教員間で共有し意識した結果、生徒の学習習慣定着に一定の効果あげることができた。 授業方法を様々な工夫した結果、アンケートでは「授業の指導方法や内容は工夫されていると思いますか。」の問いに対する生徒からの評価が高くなった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の意義を学校全体で更に浸透させ、丁寧な家庭学習習慣による基礎学力の定着を図る。また、ICT機器の利用方法を含め、更なる授業研究が必要である。 	<p>生徒 3.6 (3.7)</p> <p>保護者 3.5 (3.6)</p> <p>教員 3.7 (3.7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教員研修では、ICTスキルの向上とあわせ、「授業の実践報告」、「生徒参加型学習の組み立て方」、「家庭学習」などについても取り上げ、意見交換や情報交換をおこなっていく。
クラス指導	<p>①生活指導を重視して「躰」の徹底をはかる。</p> <p>②生徒・保護者との信頼関係を構築し、充実した学校生活を目指す。</p> <p>③教室の整理整頓を常に心がけ、クラス環境の充実に努める。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートでは「礼儀・挨拶」や「施設・設備・備品」の項目で、生徒・保護者から高評価を得ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒全員が学校生活をより充実できるよう、個々の生徒に目を向け、丁寧に指導していくことの重要性を、すべての教員に浸透させ、更に生徒の悩みや問題に対応していく必要がある。 	<p>生徒 3.9 (4.0)</p> <p>保護者 3.9 (4.0)</p> <p>教員 3.9</p>	<ul style="list-style-type: none"> より良い生徒との関係を確立させるため、日常的に生徒・保護者との連絡を密にする。 学校生活の中で、教員から積極的にコミュニケーションをとり、生徒個々の特性把握に努める。
生活指導	<p>①日常生活におけるマナーやモラル、校内ルールを守らせる指導を徹底する。</p> <p>②生徒・教職員ともに明るい挨拶を励行する。</p> <p>③服装・髪型といった「身だしなみ」指導の徹底をはかる。</p> <p>④学年毎に生徒指導部講話を開催し、心の成長を促す。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内における、生徒の礼儀・挨拶・マナーに関しては自覚を持たせる指導ができた。 心の成長を促すための企画においては一定の成果があった。 アンケートでは生活指導に関するいくつかの項目で評価が下がっている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 校外での立ち居振舞や登下校におけるマナー、その他の公共マナーに関して、更なる指導を継続する必要がある。 スマートフォンなどの普及で、使用マナーを含めた人間関係の構築に関して深く考えさせる企画を継続してつくる必要がある。 「いじめを許さない学校づくり」を実践していくうえで、人権意識を高めていくことが必要である。 アンケート評価ポイントは高いが、前年度比としては若干の下降がみられる。それは学校行事などの中止によるところが大きいと考えられる。 	<p>生徒 4.0 (3.9)</p> <p>保護者 4.2 (4.2)</p> <p>教員 3.9 (4.0)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画を年度当初に示し周知することで、学校をあげ組織的に生活指導にあたる体制をつくる。 スマートフォン(SNS)などのトラブルを未然に防ぐために情報モラル教育として実施する。 いじめに関する情報は全教員で共有し、組織的に対応して早期解決をめざす。 「学校いじめ防止基本方針」は毎年全教職員に周知する。 いじめ防止対策委員会のマニュアルに沿って早期に対応することを心掛ける。
進路指導	<p>①自己理解の深化と自己の受容、職業観・勤労観の確立、そして将来設計の立案など、高校1年次からの継続的なキャリア教育を推進する。</p> <p>②東海大学との連携を強化し、生徒・保護者が付属推薦制度をしっかりと理解できる進路指導を推進する。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染防止の影響で、東海大学については、オンラインによる「学科説明会」が中心となった。オンライン説明会については、開催案内の配布または掲示を通じて、付属推薦や学部学科に関する情報をより多く提供することができた。 湘南校舎における「オープンキャンパスの開催」については、9月実施が見送られたが、3月に1・2年生を対象に実施することができ、多くの生徒が参加することができた。 学年集会を通じて、東海大学への付属推薦を含め進路全般に対する意識の向上を図ることができた。 各学年の進路担当者が中心となり、「classiによるポートフォリオの作成」を年間を通じて行い、また1年生については、「進路サポート」による進路学習を通して早い時期から進路を考えさせることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 東海大学への付属推薦方法が年々変更されており、学部・学科について理解を深められる企画等の再計画が必要になってきている。 保護者が東海大学への理解を深める機会を計画する必要がある。 丁寧かつ細やかな進路指導のために、教員に対しても東海大学を理解できるような取り組みが求められている。 	<p>生徒 4.1 (4.1)</p> <p>保護者 3.8 (3.7)</p> <p>教員 3.9 (3.9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者ともに、より分かりやすく情報を提供できる進路説明会(保護者参加)を計画するなど、進路志望の早期決定を援助する。 「classi」や「進路サポート」などの使用方法をさらに研究し、生徒の進路実現を支援する。 東海大学広報課とも連絡を取りながら、できるだけ対面式で説明会等が実施できるように工夫する。また、オンライン説明会も、かなりの情報が盛り込まれるものとなっており、積極的な活用ができるようにサポートする。
特別活動	<p>①部活動を通して、人間関係を構築し、連帯感と達成感を学び、視野の広い人材を育成する。</p> <p>②生徒会活動や学校行事などを通じて、生徒の能動的な活動を推進し、協調性や自立心、責任感を育てる。</p> <p>③海外英語研修、特別理科講座(BSSP)などの校外での学習も充実させる。</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動では活動が制限されてきた中で、それぞれの団体が工夫を凝らし活動していた。 学校行事や委員会活動においては、行事の中止などの影響があり、生徒主体の参加がいまひとつであった。 保護者と学校の連携が図られ、部活動が展開されている。 <p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別理科講座では学外の機関と連携し、「[理数探求] [和算の世界] [遺伝子工学]」の3テーマの学習を行い、生徒の新たな興味・関心を引き出すことができた。しかし、蔓延防止等授点措置の発令により、「[理数探求]と [和算の世界]」は校外からの講師を招くことができず、最後のまとめを実施できなかった。(連携機関:かずさDNA研究所、東海大学理学部数学科) 研修旅行は実施できなかったが、「ひめゆり平和記念資料館」より沖縄戦とひめゆり部隊に関する資料をお借りして、2年生を対象に平和学習を実施した。 初の試みとして、広島平和記念資料館より資料をお借りして、1年生を対象に平和学習を実施した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、様々な校外活動の中止を余儀なくされた1年であったが、来年度は「withコロナ」の観点から、学校行事の実施及び、学習プログラムの開発に向けて更に更なる工夫を凝らす必要がある。 	<p>生徒 4.1 (4.2)</p> <p>保護者 3.7 (3.8)</p> <p>教員 3.7 (4.0)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動と部活動の両立をさらに推進するとともに、生徒の自主性や自立を重んじた指導スタイルの構築をはかる。 勝利至上主義にとらわれず、部活動を通して人間的成長に努め、また、教室では学ぶことのできない体験を提供できるような指導を工夫していく。 学校行事全般を見直し、生徒たちにどういった行事や学習プログラムを提供できるかを、先例にとらわれずに構築し、実践していく。